

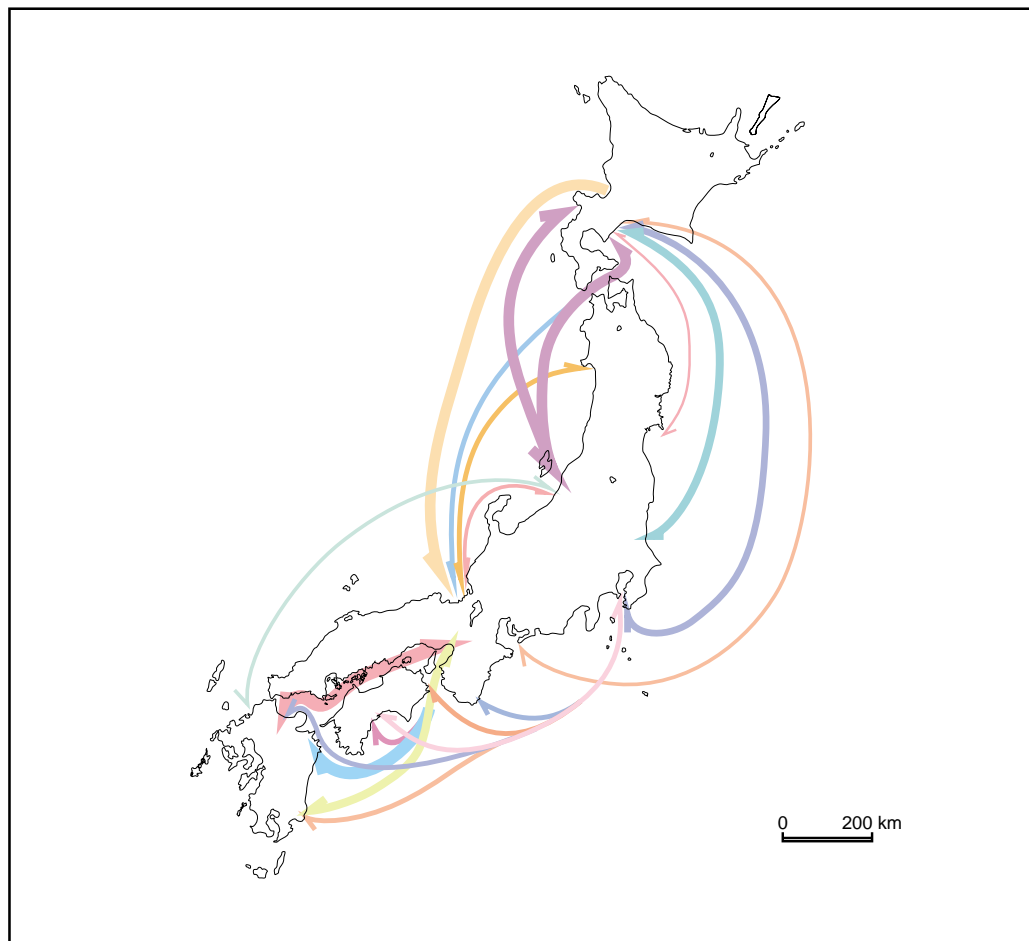
第3章 人々の生活を支える内航旅客輸送

第1節 内航旅客輸送とは

内航旅客輸送は定期輸送と不定期輸送に分けられるが、定期輸送には、旅客を輸送する形態に加え、旅客と自動車を同時に輸送する形態（いわゆるフェリー輸送）がある。

一般の旅客を対象に定期輸送を行っている航路は全国で508航路となっており、年間約1億人が利用している。また、このうち209航路がフェリー航路となっており、約1,900万台の乗用車、トラック等が輸送されている。

図表1 - 3 - 1 長距離フェリーの航路図



最近、これら定期輸送を担う旅客船の大型化・高速化が進んでおり、1万トン以上の船舶で22ノット(時速約40km)以上の速度を有する船舶も少なくない。速度に限定してみると、35ノット(時速約65km)を超える船舶も全国で32隻が運航されている。

また、不定期輸送は、主にレジャーとしての輸送手段として利用されている。従来からあるいわゆる観光船に加え、近年、国民生活の向上とともに、心のやすらぎを求めて船上における時間を楽しむために旅客船を利用する人も増えており、湾内や湖等を周遊するクルーズ船も多数就航してきている。これらの航路は全国で872航路で、年間約2,200万人が利用している。



東京と伊豆諸島を結ぶ「さるびあ丸」(東京～大島～神津島航路)

第2節 内航旅客輸送の果たす役割

1．幹線輸送機関としての旅客船

新幹線や航空路線、高速道路網の整備により、長距離輸送におけるフェリー輸送の役割は他モードと比較して大きくないが、本州と北海道、四国、九州等を結ぶ長距離路線で活躍している。

2．生活の足としての旅客船

我が国には、瀬戸内海や九州を中心に各地に大小様々な島が多数点在しており、また、陸続きでも陸上輸送に頼ることが困難な地域が存在している。

こうした地域においては、船舶が人々や生活物資を輸送するための交通機関として極めて重要な役割を担っている。

こうしたいわゆる離島航路は日本全国で316航路あり、年間のべ約6,300万人が利用している。

3．レジャーの一翼を担う旅客船

東京湾や大阪湾等の波が平穏な都市近郊の海域を中心に、食事をしながら海上からの景観を楽しんだり、心地よい潮風を肌感じてのんびり過ごすことが出来るミニクルーズ船等が多数就航しており、各種イベント等にも広く利用されている。

また、景勝地における周遊、水中の魚やサンゴ礁等の観賞のため各地で大小様々な旅客船が運航されており、これらの旅客船もレジャーを楽しむための施設として欠かせない存在となっている。